

つながり！元気！感動！

～笑顔がつくる明日の平塚～

第50回 子ども大会特集



会長あいさつ

平塚市青少年指導員連絡協議会

会長 相馬 喜昭

「つながり！元気！感動！
～笑顔がつくる明日の平塚～」



今期も引き続き、青少年指導員連絡協議会会長をお受け致しました相馬喜昭と申します。皆さんとともに明るく、笑顔で、元気よく色々な事業に取り組んで行きたいと思えます。どうぞ宜しくお願い致します。

今、人々が求めているものは、年齢・性別に関係なく、人どうしの結びつきによる「つながり」、心身の健康状態を左右する「元気」そして心の栄養や次のステップへの活力の元になる「感動」の3つの言葉に集約される

平成 30 年 9 月 1 日
平 塚 市
青 少 年 指 導 員
連 絡 協 議 会

と言います。

これらの3つの言葉は、ごくごく身近にあるものばかりですが、これだけデジタル情報が氾濫している世の中だからこそ、社会の中で人が人であるために必要なアナログ的なあたり前のことを求めているのかもしれない。

そこで、今期、私たちが心をひとつにして取組む為のスローガンをこの3つの言葉に託す事に致しました。

「つながり！元気！感動！
～笑顔がつくる明日の平塚～」

いかがでしょうか。地域の子どもたち、保護者、諸団体の方々、学校教育関係者のみなさんとの縁あつてのつながりから、自身の元気を周りに伝え、また、周りの方々から元気もいただき、一緒に活動する中で感動も得ることにつながるというものです。

具体的には何よりも「笑顔」で始めることが大切と考えています。まずは難しく考えず「笑顔」を意識することから始めてみましょう。その次に「笑顔」で触れ合ってみましょう。

青指発の「笑顔」をもとに、ふれあう子どもたちから「笑顔」を引き出すことで、それがきっかけになり、人との「つながり」が更に太くなり、活動を通じて「感動」を得られるのではないのでしょうか。

つながり、元気、感動、笑顔、ぜひ一緒に取組んでみましょう！

旭地区子ども大会

旭地区青少年指導員

旭地区子ども大会は、旭小学校に御協力をいただき、天候に左右されないよう旭小学校体育館で毎年5月第2土曜日開催となっております。本年度は5月12日(土)に実施しました。従来は、保護者参加の「ミニ・ゲーム」形式で開催していましたが、昨年度から保護者参加の「仲間づくりゲーム」形式で開催しています。



従来の形式と異なる点は、「楽しいレクリエーションの一日を過ごしてもらう」からプロジェクトアドベンチャー(Project Adventure)を意識した内容へというものです。

これは、ゲームを通して、「新しい自分を発見し」、「自分をより好きになり」、「みんなと交わることの楽しさを学ぶ」ことを少しでも体験してもらえる機会を提供できればという思いからとなります。



5月12日(土)当日は、約200名の児童、約70名の保護者、約40名の未就学児に御参加いただき、お昼までの短い時間でしたが、明るい笑顔で楽しんでいただけました。

プログラムは、開会の言葉から始まり、校長先生からのご挨拶、準備体操のあと、緊張をほぐす目的から、2種類のゲームを実施しました。

まずは「握手ジャンケン」です。これは「相手を見つけたら握手してジャンケン(3回勝ったらその場に座る)・負けたらまた次の相手を見つけてるゲームです。

続いて「みんなおに」です。これは「みんなが鬼と逃げる人の両方をやる・誰かにタッチされたらその場に座る・タッチした人は次の相手を見つける」ゲームです。怪我のないように実施するため、「走らずに早歩き」「タッチするのは前からだけ・タッチする場所は、手だけ」とルールを設けましたが、みんなルールを守り、大きく元

気な声が体育館中に響き渡っていました。

続いては、チームを編成する目的から、「人数あつめ」を実施しました。これは「じゃんけんぽんの合図でサインをだし・同じサインの人を指定された数探して・グループをつくる」ゲームです。

指定された人数のグループが作れない場合、他のグループと相談し、グループを再編成する姿が見られました。

未就学児を対象にしたゲームとしては、1種類ですが「よいどん」を実施しました。

続いては、開会で整列した際にあらかじめチーム割を実施していたチーム別に、4種類のゲームを実施しました。

「言葉を使わずジェスチャーでテーマの順番に並びかわる」「ラインアップ(2人組からチーム全体を対象を広げ、手をつなぎ・お互いのバランスを取りながら同時に立ち上がる)」「スタンド・アップ」(決まった数の玉を協力してかごに入れる)「協力玉入れ」(全員で輪をつくり・輪の中に入れたフラフープを・手を放さずに1周させる)「フープリレー」でしめくくりました。

チームを理解し・一体感を醸成し・チームワークを高めることが目的になります。



子ども達の元気な姿は、何よりも輝いて見え、大人達の心を癒してくれるものと改めて感じる事ができました。子ども達には、この子ども大会を通じ、仲間や地域とのふれ合いの大切さを少しでも感じ取って欲しいと思います。

最後となりますが、旭小学校の諸先生方、PTA学級リーダーの皆様、旭学童保育会の指導員の皆様の御協力です。第50回旭地区子ども大会が無事行われたことを青少年指導員一同心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

中原地区子ども大会

～ 青少年指導員 ～

6月2日(土)第50回子ども大会おぼけ大会が開催されました。当日は天気にも恵まれ夕方には、そよ風が吹

き絶好のおぼけ大会日和となりました。

参加人数350人、その他役員、ボランティア、来賓、保護者を含めると総勢540人の大規模な大会になりました。



平成25年以降、かるた大会からおぼけ大会に変更になり早くも今年で6回目の開催となります。

毎年、開催毎に反省会を開き改善点を修正し、少しずつでありますがおぼけグッズや備品の購入、大勢の方からの寄付でこの大会が成立しています。

そして本番当日まで2回の綿密な打ち合わせの成果が発揮でき大変クオリティが高い物が出来あがりました。運営側も毎年クオリティが上がっていると感じ、トリックやトラップもあり、怖さを感じました。子供達の反応が楽しみでワクワク感がたまりませんでした。

開始時間、入場前から、子供達も楽しみなおぼけ大会とあって入場待ち

の列ができ大盛況でした。その中でも子供達の表情は、こわばっている子もいれば、楽しみではしゃいでいる子もいて様々でした。



いざ開演になり北校舎を上がり、教室を巡って渡り廊下を渡り、南校舎を巡って下る道順でゴールとなります。

まずは、多目的ルームでの迷路を抜けてからのスタートになります。以後のおぼけ校舎の詳細は言えませんが、かなり長い道のりなので、途中泣いてリタイアする子、泣いているけど喜んでいる子、無口になりフリーズしている子、笑っている子、子供達みんな様々です。

泣いている子供達には大変申し訳ないと思う半分、おぼけ大会としては成功として喜んで良いのかと複雑な気持ちになりました。

それでも終わったばかりの子ども達の表情を見てみると笑顔が多く見られ、中には感動したよ、超面白かったと言う声が聞けて役員としても嬉しい限りでした。



この声が来年の活力になり密かに思考をめぐらせています。

そして、子ども達からエネルギーをもらい後片付けをして長い一日の終わりとなりました。

最後になりますが、この大成功となったおぼけ大会には校長先生や先生方、また地域の方々の協力をはじめ自治会の皆様のボランティアの協力を頂き、滞りなく開催できました。この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

神田地区子ども大会

〜神田地区青少年指導員〜

子ども大会は、1年に1度の特別な行事です。神田地区では、「今年の子ども大会は何をしようか？子ども達のためにどんな子ども大会にしよるか？」そんなことをいつも考えています。こんな考えのもと、実現したのが平成27年から29年まで開催した相模地区との合同子ども大会です。隣接

している神田小学校と相模小学校、この特別な環境が、子ども大会を合同で行なうヒントをくれました。



もともと神田地区と相模地区(田

村・大神・吉際)では、毎年合同で地区対抗レクリエーション大会を開催しており、また子ども達も中学生になると神田中学校に通うなど、神田地区と相模地区はとても関わりが深い地区です。そして今から約30年前、私がまだ小学生だった頃、平子連で行なわれているドッジボール大会の地区代表チームを決めるため、子ども会対抗で地区予選大会を行っており、神田小学校と相模小学校の子ども達と一緒にドッジボールを行なったことは、今でも鮮明に私の記憶に残っています。今では、子ども会も1つしかなく、予選大会は開催できませんが、子ども大会と一緒にドッジボールを行なえたら楽しいのではないかと考え企画したのが、合同ドッジボール大会です。子ども達が大きくなった時、この子ども

大会を思い出してくれたら、とても嬉しく思います。



快く一緒に開催して頂いた相模地区の青少年指導員の方々、本当にありがとうございました。そして平成30年度は、気持ちも新たに4年ぶりに神田地区単独で子ども大会を行うことになりました。例年6月頃に子ども大会を開催していましたが、今年はハロウィンに因んで10月20日(土)に開催予定で、只今子ども達を楽しめる企画を考案中です。

私は、子ども大会の実行委員としてここ数年いろいろな地区の子ども大会に訪問させて頂きました。他地区の子ども大会を拝見すると、企画も様々で、新しい発見もたくさんありました。私は、他地区の子ども大会を見ることで、アイデアが膨らみ、子ども大会はもっと良いものになるのではないかと考えています。これは個人的な意見ですが、現在平塚市には28地区の小学校があります。28地区を4地区ご

とに7グループに分けて、同じグループの子ども大会だけでも見に行くようにしてはいかがでしょうか？そうすることに、自地区以外の3地区の子ども大会を見学することになります。もしかしたら、新たな発見や交流が生まれるかもしれません。

今年には記念すべき第50回の子ども大会です。これからも子ども達の思い出に残るような素晴らしい子ども大会を作っていきましょう。

金田地区子ども大会

～金田地区青少年指導員～

本地区の子ども大会は一昨年度までの6年間、地域にある「神奈川県立花と緑のふれあいセンター花菜ガーデン」でウォークラリーを実施してきました。子どもたちは、縦割りの班でボランティアの中学生(金旭中学校ボランティアサークル「K・V・C」とともに元気いっぱい)に花菜ガーデンのフィールドを駆けずり回りながら、ウォークラリーの問題に挑戦してきました。リピーターの子どもたちも多く、継続的実施も考えられましたが、昨年度から子ども大会の内容を左記の理由で変更することを検討しました。

・ウォークラリーは屋外活動のため、天候の影響を受けてしまう。(実際、延期になることも数回ありました。)

・延期になると、参加を楽しみにしている子どもたちの中で、日程の関係で参加できなくなってしまう子が出てしまう。

まずは、天候の影響を受けずに、参加を希望した子どもたちが実施予定日に必ず参加できる内容はないものかという検討を重ねていました。そんな時、みずほ地区の子ども大会で行われている「陶芸教室」を見学させていただきました。小学校の体育館の中で、子どもたちが生き生きと製作活動に取り組んでいる姿に感動しました。



そして、本地区の子ども大会も、この「陶芸教室」を取り入れてみようと考えました。みずほ地区の青少年指導員の方に、運営までの手順を伝授していただき、昨年度の子ども大会より「陶芸教室」を実施しました。材料(粘土)費を参加者に負担していただくことになるので、参加希望者の動向が心配されましたが、例年並みの参加人数があり安心しました。



子ども大会当日の子どもたちの様子は、みずほ地区で見た子どもたちと同じように生き生きと製作活動に取り組んでいました。また、焼き上がった作品を受け取る時の子どもたちの笑顔は最高でした。今年度(10月28日(日))もその笑顔を見ることができるよう子ども大会の計画をしていきたいと思えます。



広報委員のつぎやき

なでしこ地区の青指は、女性6名、男性2名の合計8名で活動しています。毎年ですが、活動を行うにあたり、

なでしこ青指もモットーがあります。それは、「私たち青指が楽しむ！」です。

子ども達の笑顔を引き出すためには、まずは、青指自ら楽しまないと、感じていくからです。

今年の子ども大会も6月24日(日)に開催し、子ども達と一緒に「手作りグミとキーホルダー」を作り、ケガも無く無事に終わりました。その際、ある方から「青指のみなさんの楽しむ姿勢がとても伝わり、楽しい時間を過ごすことができました」と、嬉しいお言葉を頂きました。

今後、子ども達の笑顔を引き出すべく、「私たち青指が楽しむ！」姿勢で活動したいと思えます。

なでしこ地区 田邊 貴也

【広報委員会】

委員長	なでしこ地区	田邊 貴也
委員	花水地区	安永 典史
〃	旭地区	田代 信子
〃	豊田地区	伊東 多恵子
〃	神田地区	土屋 裕之
〃	金田地区	青木 一規
〃	真土地区	石井 康仁
〃	松が丘地区	柳瀬 克則
〃	松延地区	伊川 眞理
事務局	青少年課	三春 雄太
〃	〃	東海林 拓也